

事業実施主体名:作並温泉農泊協議会

令和8年2月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業)	取組概要(※)
宮城県 仙台市	R4年度	作並エリアを中心とした広瀬川の豊かな水をテーマとした新たな体験コンテンツの造成および商品化およびPR・販路の確立	-

※ 事業名や主たる取組名を記載すること。

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

取組状況は予定どおり実施されており、体験プログラムの開発に結びついているが、造成時期が遅くなったことから販売としての成果につながっていないように伺える。また、実施体制については、中核法人が法人格を有しておらず、責任の所在が明確化されていないため、ビジネスとして農泊を実施する体制が整っていないと判断される。

今後、農泊の取組に必要な体制整備を改めて行い、地域協議会を軸とした活動をまずは継続させること、その上で、本事業の成果を販売につなげ、目標達成に向かう取組となること期待したい。

農泊の取組に必要な体制整備を改めて行い、法人格を有した中核法人を構成員とした実施体制とすることで、責任の所在を明確化させることが重要である。そのために、今後も地域での協議を引き続き行い、地域の意思統一を図りながら、各主体の役割分担を明確にしていく必要がある。

その上で、造成された体験プログラムや食事メニューの磨き上げを行い、販売に向けたプロモーションを地域一体的に行っていくことで、着実に目標達成に向けて取組を進められるよう十分に検討されたい。

## 2. 低調と評価された要因

事業実績の売上高及び延べ宿泊者数の達成率が50%未満であり、中核法人が事業完了までに法人格を有しておらず総合評価がCとなった。体験プログラムの造成時期が遅くなったことで、販売としての成果につながらなかったことも要因の一つである。

また、実施体制について、中核法人が法人格を有せず、責任の所在が明確化できていないことから、農泊の実施体制が整うに至らなかった。

## 3. 目標達成に向けた方策

速やかに実施体制を再構築するとともに、責任の所在を明確にするため、中核法人が法人格を有することとし、新たな農泊の実施体制を整えていきたい。

食事メニューや体験プログラムの取り組みについては、上記の実施体制をもって、既存の取り組みのブラッシュアップを行うとともに、新たな魅力ある取り組みの発掘を速やかに行い、地域の農泊の取り組みとして維持継続できるように対応する。

## 4. 改善状況

課題となっていた点については、それぞれ下記のとおり取り組んだ。

①体制の見直し:協議会の中核法人は法人格を有していないため、新たに作並温泉農泊協議会の法人格を有している構成員を中核法人に追加する予定となっている。

②売上高:(目標)656万円 (実績値)1,126万円 (達成率)171% 目標を達成。旅館利用者が回復し、宿泊利用者が増えることで相乗的に売上が向上した。

③延べ宿泊者数:(目標)400人泊 (実績値)512人泊 (達成率)128% 目標を達成。

④食事メニュー数(目標)5 (実績値)5 (達成率)100% 目標達成。地域食材を活用した食事メニューを積極的に宿泊施設で提供し、好評を得られた。

⑤食事メニュー利用者数(目標)200人 (実績値)251人 (達成率)125% 目標達成。食材をお土産で購入したいなど問い合わせもあった。

⑥体験プログラム:(目標)5 (実績値)5 (達成率)100% 目標達成。

⑦体験利用者数:(目標)160人 (実績値)362人 (達成率)226% 気軽に参加できる体験プログラムが好評であった。